

A wide-angle photograph of a rural landscape. In the foreground, several large, conical haystacks made of golden-brown straw are arranged in rows. Behind them, a green field stretches towards a line of trees. In the background, a range of large, brown mountains rises under a blue sky with scattered white clouds. The overall scene is peaceful and depicts a traditional agricultural setting.

地元学調査「山で生きる」 ～鳴子・鬼首 金田孝一の生き方から学ぶ～

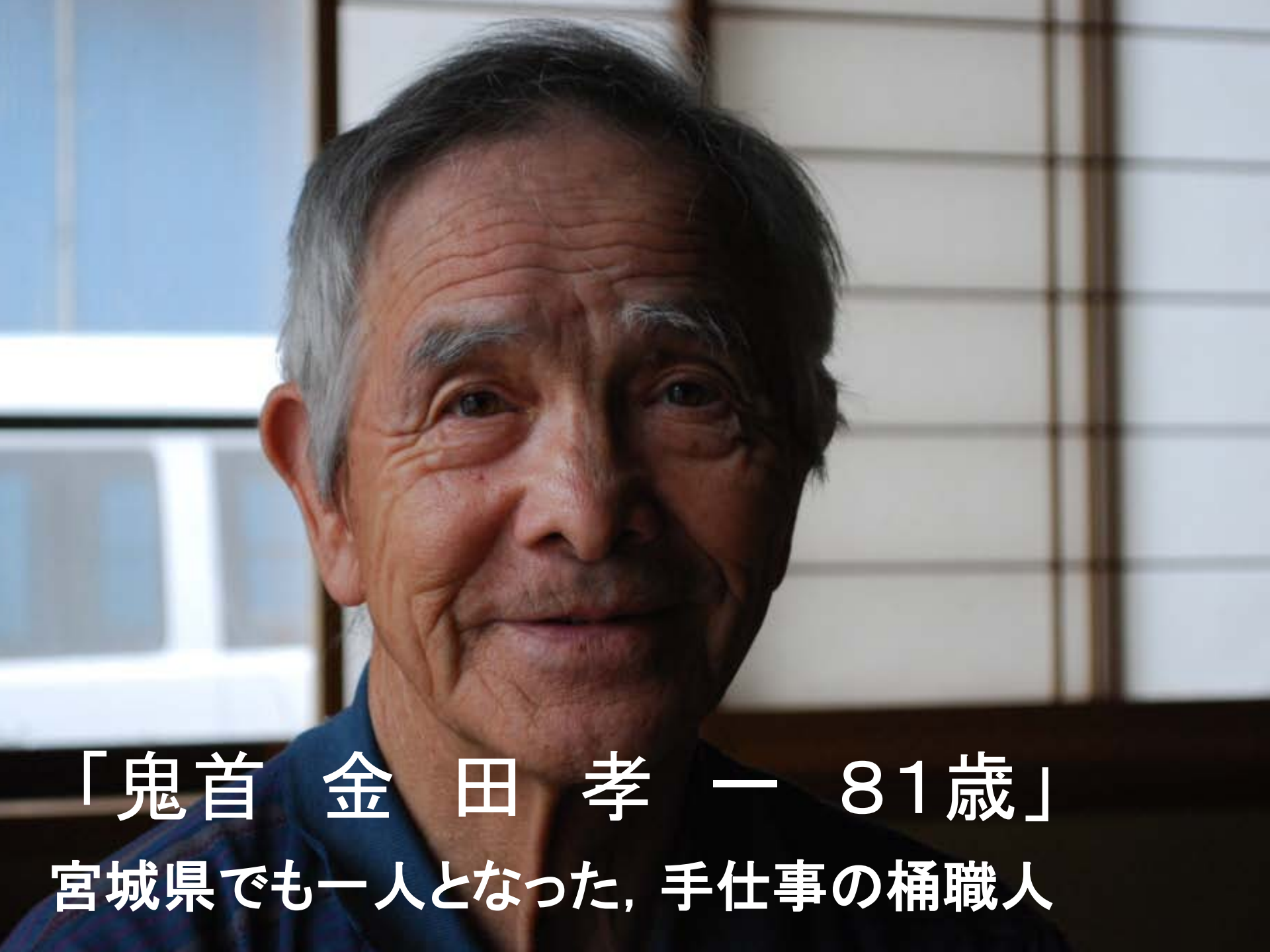
宮城県大崎市 安部祐輝

鳴子のどこに着目するか？

- 温泉, 観光, 山間→山間→鬼首

→山での生き方に絞る





「鬼首 金田 孝一 81歳」

宮城県でも一人となった、手仕事の桶職人

「オレは、金出さん」

- 家にお邪魔してもいいか電話で確認すると、
「金田さんですか？」
「一千もないから、金出さん です。」
- この前も人きて、「いやあ犬のえさ代大変なんだあ、ロンって
いう犬飼ってたあ」、「さっぱり何回来ても犬みだごどねえ
なあ」「すがだ見せねんだあ、名字もあんだあ」、「何ていう
名字？」、「住宅っていう名字だ。住宅ローン」「まだ、やらっ
たあ」
「貧乏するくれして、ひらきなおったんだあ。」

金田さんのまわりは、いつも笑いが絶えない。
笑いながら楽しく、生きる！

「天災は、一番おっかねえ。」

- 「天災が一番怖いなあ、あれだけは俺、あだまにながったもんなあ」
- H8年の鬼首地震について

何十年もまえがらその兆候はあったんだよなあ、学校やめてすぐぐらいから、ドーンドーンと、あれは直下型のずれるおどだもんなあ、昭和20年ぐらいがらがなあ。それを地雷だあ、地雷だあ、っていつてだもんだもんなあ。おれは逃げ足速くて、旧暦の12月28日に、まゆ玉、ミズキにつくってだば、えらいおどしたどぎ、まゆだまもったまま、そどの道路の半分まではしってで、逃げ足ははへえのさなあ。

- みんななんかなるつつうのはわかってだ。
- 平成8年のは、揺れではなくて、自衛隊の演習の何十倍のおどで、はらわだが飛び出してくるような、ゆれつつんでなくて、一瞬に吹き飛ばされた。とびらつつー、とびら全部外側さ、はずれだんだから。上の敷居と下の敷居があいだわけだ。立ってる戸一枚もながった。
- スカイツリーなんてあんなものたでで、絶対安全なんていっても。何百メートルとがたでるようになると、その兆候はじまってんだでえ。1か所揺れっと、そのひづみいくんだ 忘れたころにやってくる。

天災は、一番おっかねえ。

「山さいぐどきは、なんぼでもかるぐ、せながのかわもはいでいぎでえ。」

- 山さいぐどきは、なんぼでもかるぐ、せながのかわもはいでいぎでえ。朝7時ぐらいにでで、夕方4時頃帰ってきて、ひるめしってくったごどねえもんなや。おいぎりだけはもってくんだあ、ただ、忙しくてくったごどねえなあ、忙しくて。もう少しとりでえ、なんぼでもとりでえって。
- でも、むかしの半分しかあるげねくなつた、きよねんあたりから、20kgぐらしかしよえねぐなつた、おぐのたぎみみたいなとごろ、おりでぐっから。いじばんしよっできたどぎ、たけのご32kgしよっできたなや。

こご(鬼首)は、木の本場、桶、
じゅうばご、お膳、曲げもの、塗り...

- 桶やは、鬼首に3軒しかながった。ちいさいころは、こごは木の本場だから、木の細工物、じゅうばごどがおぜんつくるひどどが、それがらまげものどが、わっぱつくってだ。炭焼き始めるまでは。それまで、みんな椀ひぐひと、塗るひとはぬる、塗りまにあわなぐなって、鬼首から鳴子にさげるようになった。
- それがらなるごで塗りや増えだんでねえが。木地を鳴子のぬりやまでさげるのが、だちんしよい。だちんをとるっていうみだべなあ。おかねをもらってかえってくる。目あんまりみえねえのどが、だちんしよいしてだなあ。

「木見るだけでも、 50年かかるもんなあ。」

- 誰でも、覚えたいひとに桶づくり教えるっていっでるけど、だいたい木見るだけでも、50年かかるもんなあ。だから山さいぐど、あそごの木なぞになってるべなああって、ひとづのびょうぎなんだべなや、1日に何回がいくんだが。この木、こういう風にひげば、こういうもくでくんでねえがあって。杉1本割るにしても、木の枝がら、木の肌がら、長年の感で見ねえど。おしえだつて、何十本も、何百本もきってみねえどわかんねえ。自分で判断しても、いざ切ってみると違ってだどが。
- 桶やなんつうのは、桶のかだし作るのは誰でもできる。ただこの木は何十ねんたづと、この木はどういう風になるって、そごまで考えねえどだめだしなあど思って。ばがなごとはじめだもんだなど思って。

「まっくらいどぎやっても、あがるいどぎ
やっても同じ、長年の手触りだ」

- 同じ木でも、やわらかいどごろど、かたいどころあるどぎ、やわらかいのかたいの交互につかう。内も外も口あかねえように木一枚一枚、その固さによって、合わせ目とんのが、それもひとつの大変なしごどだ。
- 長年の手触りだなあ。これはかたいか、やわらかいが、まっくらいどぎやっても、あがるいどぎやっても同じだ。金物とぐどぎも同じだ。
- 桶屋なんつうのは、ふつうの人間でねんだあ、手の感覚だけだあ、苦勞したんだなあ、

「ものづくりする人は、半分木の勉強、山の勉強だ、今でも失敗すつとぎある」

- 木でもものづくりする人は、半分木の勉強しねえとわがね。でも、まだ失敗すつとぎある、この木はこうだなあと思っても。
- んだなあ、山を勉強するごとだなあ、地形によって、木の性質が悪いどごはだめだ、ひのきどがは、やっぱりかまないだなあ

「大事ななのは、神様、仏様よりも、 古い人だちの言い伝え」

- 大事にしてるのは、古い人だちのいいつたえだな
 - 山にはいるどぎはどうするどが、ひざのうえ越したどぎ、川絶対わだってなんねどが 参考にして、山の木見てあるがねえど。
 - 地元のことわざ、格言を、神様、仏様よりも、おれは大事にしてるようだな
 - いいつたえを参考にしながら、いきでいぐってということ
昔の人のいいつたえを参考にしながら、やまをあるいて、木をみたりして、いぎでぐごどだな、山でいぎでいぐには。
- 単なるじゃれごととしては、かだずけらんねえようだ。

「こご(鬼首)は、木でいぎなげれば、 いぎでいがんねえ!!」

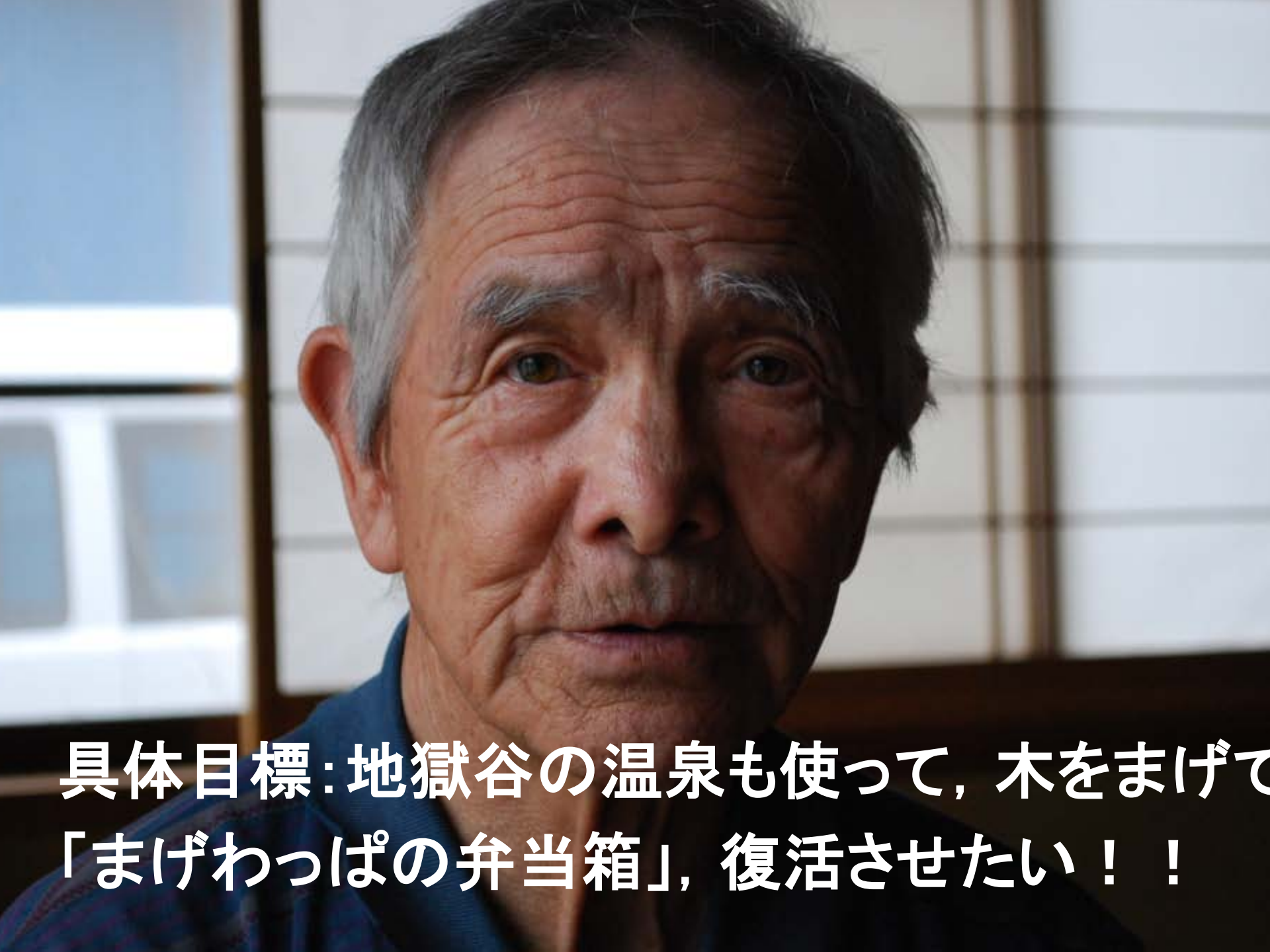
- 鬼首, いろいろだ, いいどごもあるし, わるいどごもあるし, すいたいしていぐんでねえの。こごは, 木でいきなげれば, こごはいぎでいがんねどごだから。
- 今木伐ってさげるだけだから, ベニヤにできなくでも, むぎっぱなしにして, さげるばりでも, 工場でもできんでねえがな。こごだったら, 杉のざっぱ焼いでも公害もねえべし, ここでやれば下げなくて運賃もすぐなくすむんでねえがなっておもってんだげどなあ。
- そのままでなく, いくらでも1次加工しておろせば, 雇用も生まれるし, こごさ, いくらでも山の恵みのごんでねえがな。
- 桶も同じだけど, 木もいいのなくなってくる, 手入れしねえがら。

金田さんの手で作った 桶



地元学調査を通じて、感じたこと

- 鬼首の生き方をつらぬいている。鬼首に、山に、木に育てられ、心の底から満足した生き方を送ってきて、自信をもって、ここで生きてよかったと言える、心がすわった人生を送っている。
- お金、とか、目に見える価値ではない、自分には見えないが、金田さんの目には、鬼首がどれだけの価値で見えているのか、もっと苦勞して厳しさを知らないと見えない気がする。
- 鬼首、山は、到底都会では味わえない、厳しいことも、豊かさもすべて教えてくれた。山に感謝して、山が持続できるように、あきらめずに考えて、木を活かすことを考え行動しなければいけない。
- もっと山で暮らしている人と話をするのだと思う。



**具体目標：地獄谷の温泉も使って，木をまげて
「まげわっぱの弁当箱」，復活させたい！！**